

「サプライチェーン イノベーション大賞」提出資料

キューピーの 持続可能な食品物流の取り組み事例



2019年4月26日
キューピー 株式会社

社会課題の解決に取り組み、持続可能な社会の実現に貢献

SDGsを参考に取り組みべき社会課題を抽出し、キューピーの重点課題を設定




CSRの基本的な考え方



持続可能な社会の実現に貢献するとともに、
グループの持続的な成長の基盤として
CSR活動を推進。

キューピーのCSRの重点課題の1つにCO2排出削減を掲げています

重点課題	キューピーグループの想い	SDGsとの関連づけ
CO2排出削減 (気候変動への対応)	地球温暖化防止の実現に向け CO2排出削減に取り組みます。	

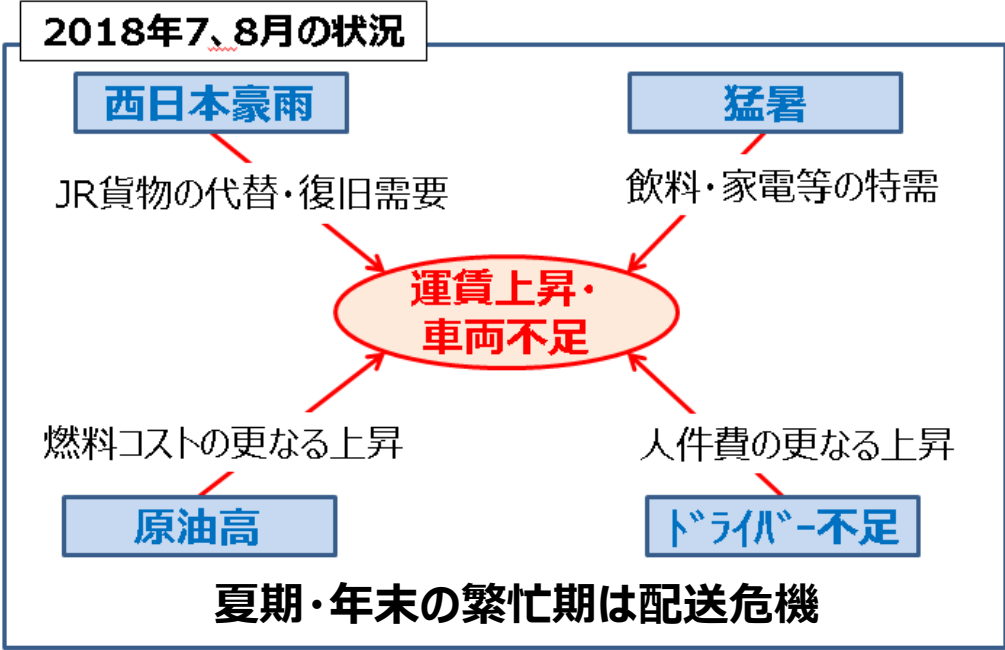
急激に変化する物流環境に向き合い、持続可能な物流を構築する。

① 運べなくなるリスク対策

ドライバー不足・今後回復の兆し無
過度な時間指定、待機・配送車両の増加
物流波動・月末月初、大型連休

② 延着等のトラブル対策

小ロット多品種多頻度納品・荷役作業の負荷
荷役人員不足・ドライバー不足と同様
待機・附带作業の増加・行政が動くほど深刻



既に
車両・ドライバー確保が
益々困難・危機的

お届けするために、
リードタイム緩和策等の
実施が急務

イベント (G20/GW10連休/消費増税/オリパラ等) に留まらず、先を見据える働き方改革法案の自動車運転業務の時限措置5年も、**早期の改革が必要。**

キューピーの物流効率化の取組み事例

事例① 異業種 3 社による共同輸送の取組み

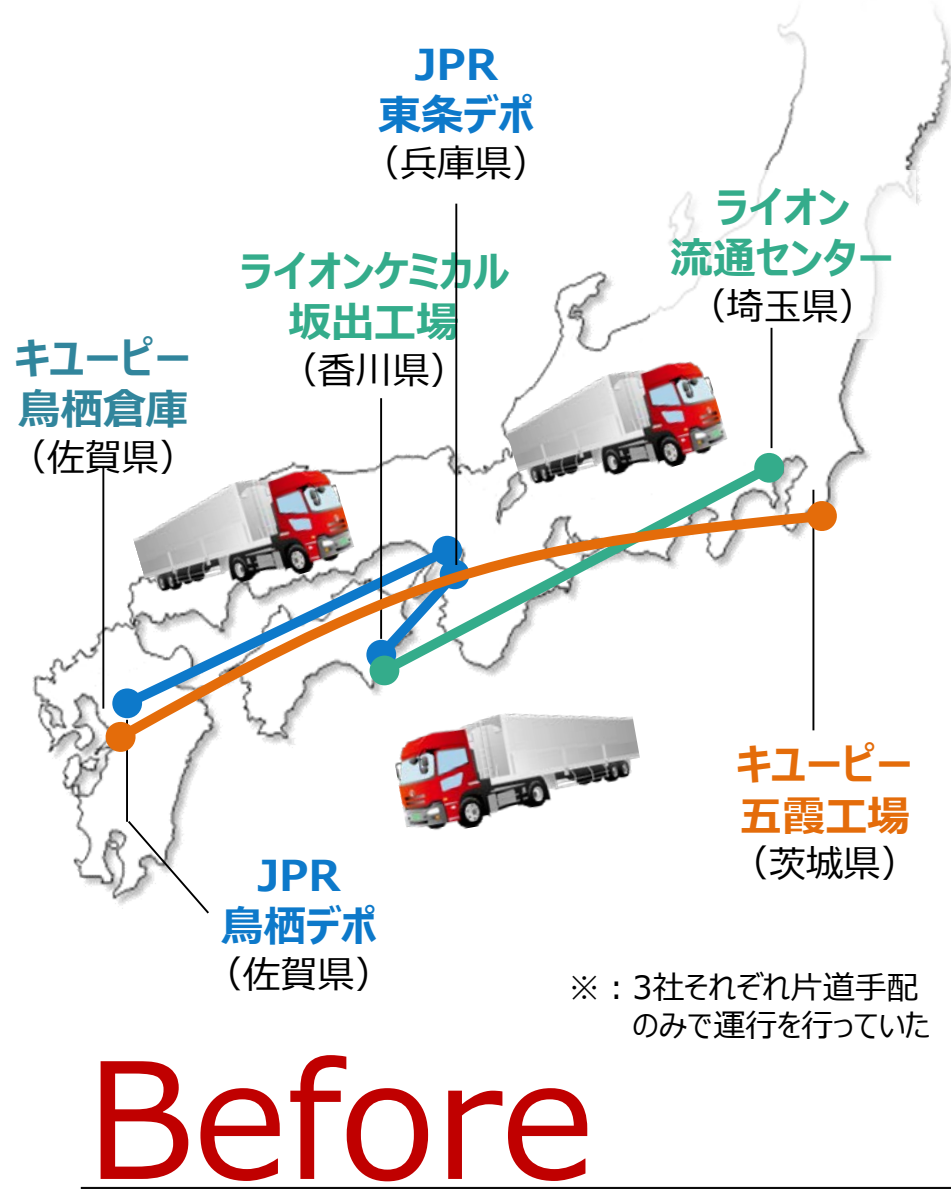
事例② 鉄道コンテナの共同活用の取組み

事例③ 繁忙期（夏期・年末年始）翌々日配送の取組み

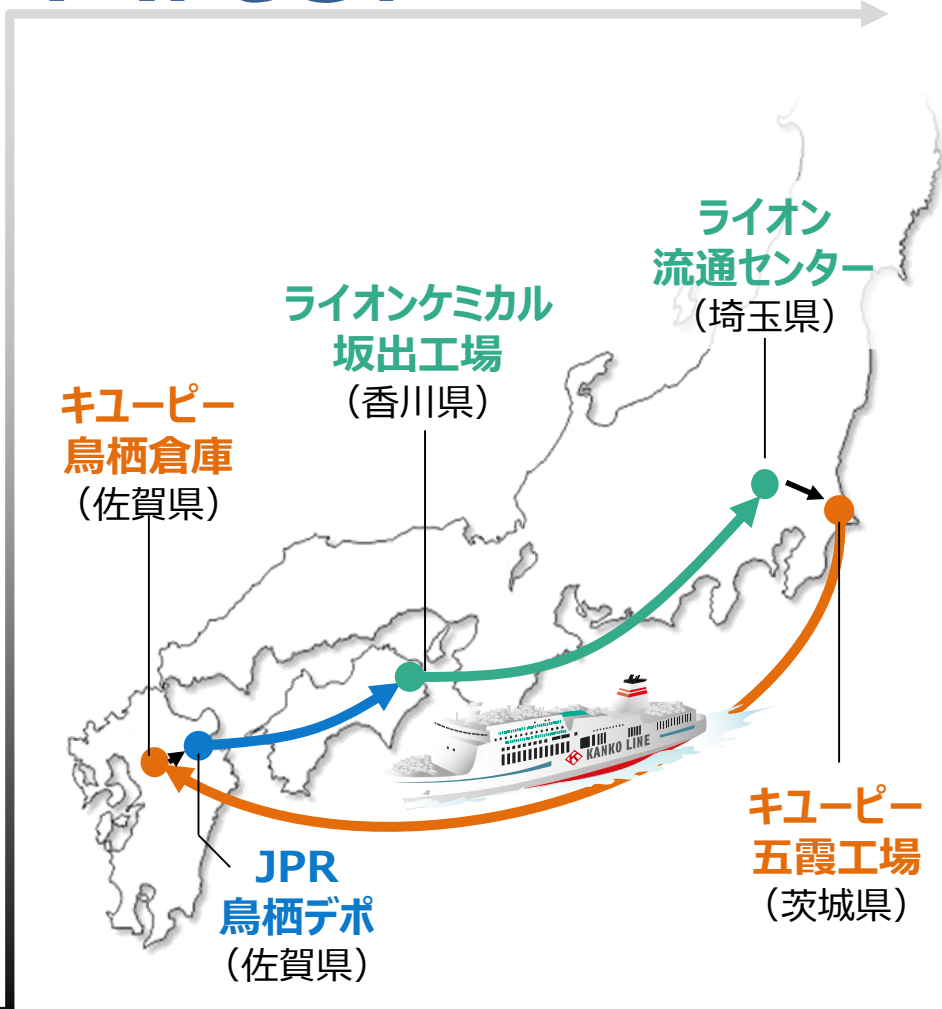
ライオン社 (日用品) 日本パレットレンタル社 (パレット) との協働

対象：常温品

After



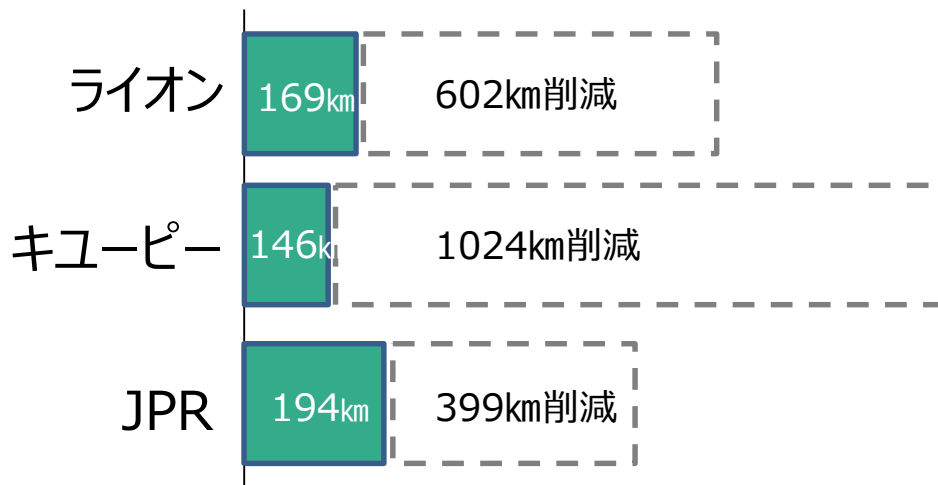
Before



キューピー 五霞工場 (茨城県)

2018年8月より実施、19年3月までに **30回** 実施

トラック輸送距離



79.9%削減

ドライバー人員



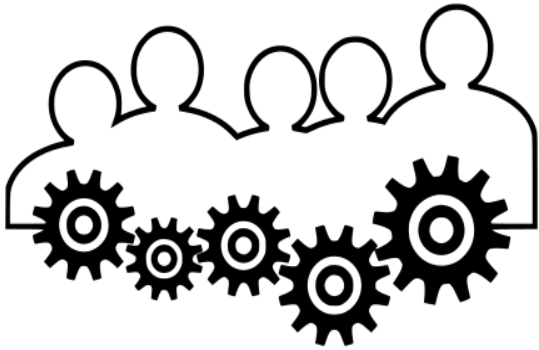
7人削減

往復実車率 **99.5%** の実現

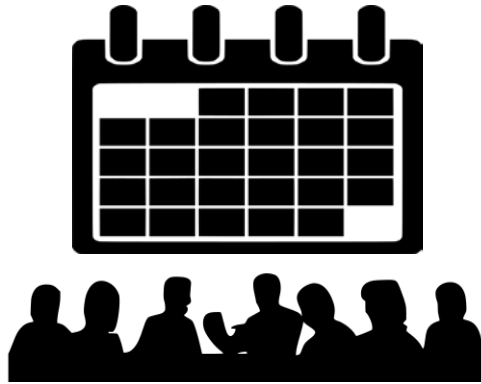
① オープンな連携

② 業種を超えた
協力

③ 導入コストなし



3社が強い路線、弱い
路線を出し合って今回
のルートを構築した



3社の輸送日を調整し、
自社の都合に輸送を合わ
せるのではなく、幹線輸送
日に輸送を合わせた

¥0

開発コストや導入コストは
かかっていない

【事例②】31ft 鉄道コンテナの共同活用 取組み概要

背景：モーダルシフトへの取組み：キューピーモーダルシフト推進協議会

2015年より、CO2削減及び、今後予想されるドライバー不足に対応するために立上げ

参加企業：全国通運（株）、日本貨物鉄道（株）、（株）キューソー流通システム

キューソーティス（株）、（株）エスワイプロモーション、キューピー（株）、キューピータマゴ（株）

【 キューピーの課題 】

自社オリジナルの冷凍コンテナを保有し、
関東⇒九州を鉄道で輸送をしていたが、

九州⇒関東は十分に活用できておらず

【 伊藤ハム社の課題 】

九州⇒関東をトラックで輸送をしていたが、

モーダルシフトを検討していた



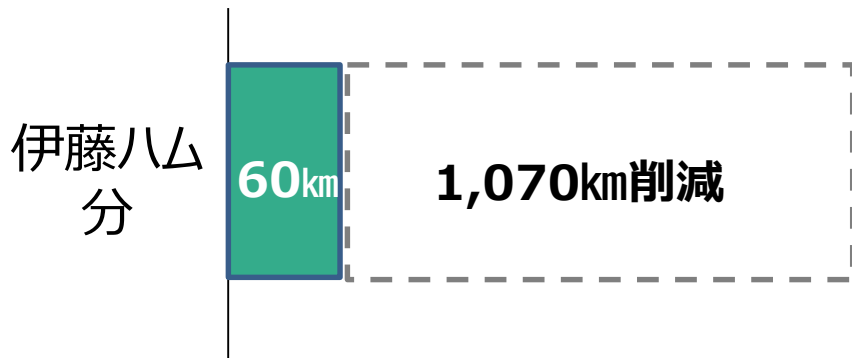
2社の考え・ニーズが合致し、18年12月より

伊藤ハム社 と キューピーのラウンド輸送を開始 対象:冷凍品

2018年12月より週2回実施、19年3月までに **30回** 実施

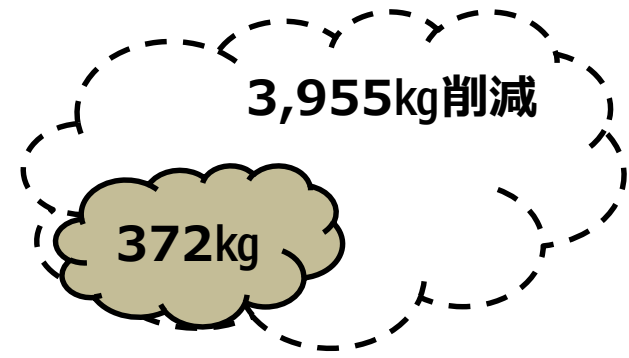
※1回あたり ※九州⇒関東のみ

トラック輸送距離



94.7%削減

CO2排出量



91%削減

往復実車率 97% 積載率 **100%**
を実現

【事例③】年末 翌々日配送の取り組み 背景・概要

キューピーはこれまでも荷主メーカーとして、さまざまな物流効率化の取り組みを進めてまいりました。

しかし、それ以上に物流環境は厳しさを増しており、現状では不十分に。
持続可能な食品物流の実現のために、**更なる物流効率化が急務**



お客様にお届けするために

2018年 繁忙期の翌々日配送を実施

対象エリア

対象温度帯

第1弾
(夏期)

1都9県

常温品のみ

第2弾
(年末)

全国

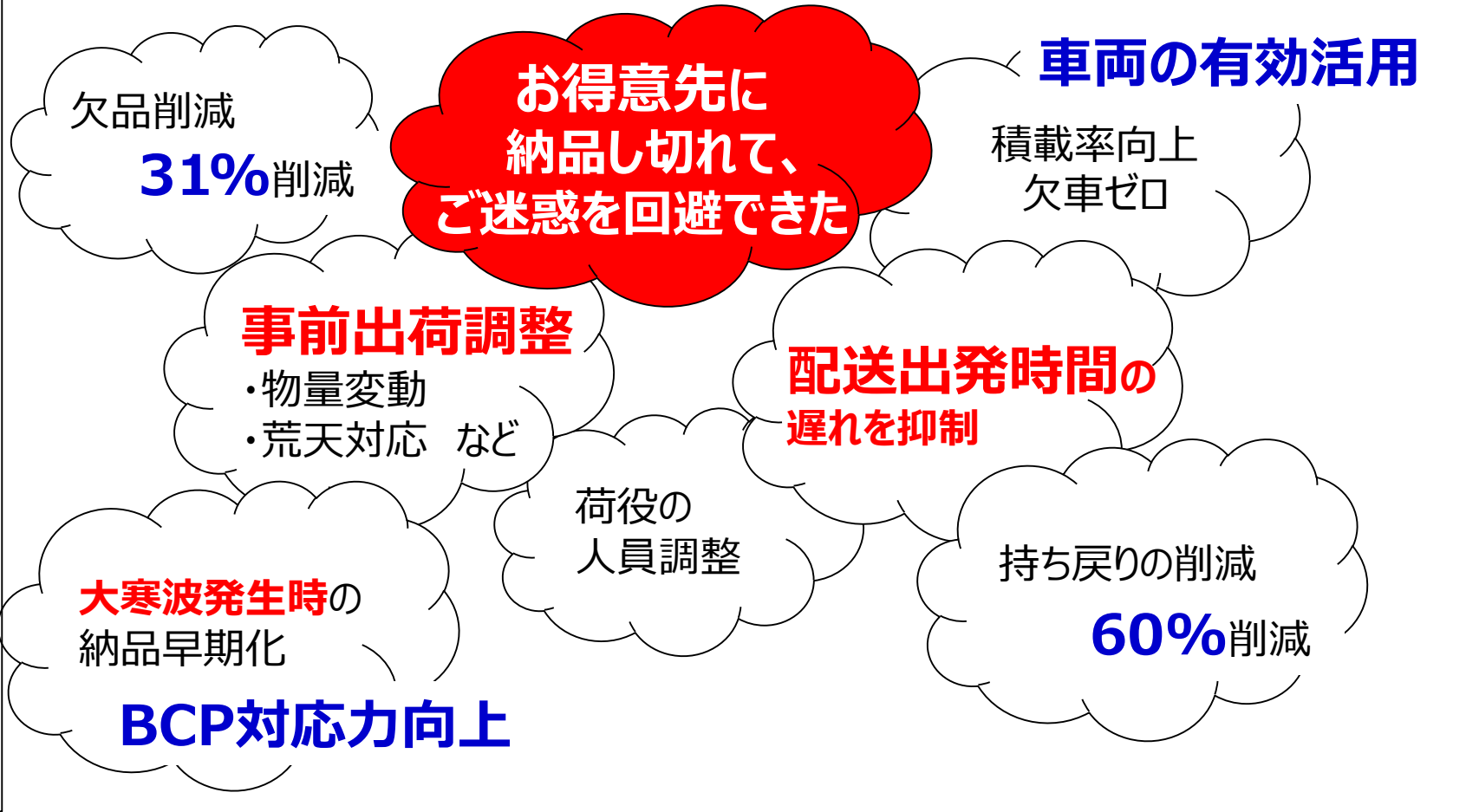
3温度帯
(常温・冷凍・冷蔵)

【事例③】年末 翌々日配送の取り組み 効果

結果

お客様のご協力のおかげで、リードタイムを活用した、事前の物量調整が実現。全国で未配車を発生させることなく、繁忙期を終えることができた。

効果



課題

- 追加注文の増加
- ドライバーの長時間拘束
- 物流現場の前倒し作業 (スペース確保)

【事例③】配送効率化の取組み 過去～今後

これまでの キューピーの物流効率化に向けた主な取組み

- 2010年 小口配送の削減に着手
- 2013年 特定の取引先との間で、翌々日納品・検品レスの運用を開始（1月）
- 2014年 出荷の平準化に着手
- 2015年 事前出荷情報（ASN）システムを業界標準化
（一般社団法人日本加工食品卸協会の標準フォーマットに）
- 2017年 チルド商品の日配物流を手掛ける（株）フレッシュデリカネットワークが稼働。
グループのカット野菜や惣菜などの積載効率の向上が狙い
- 2018年 キューピー（株）、ライオン（株）、日本パレットレンタル（株）の異業種3社による共同幹線輸送を開始（8月）。
キューピー（株）、伊藤ハム（株）の31ft鉄道コンテナ（冷凍）を活用した共同輸送を実施。
物流量が増加する繁忙期対策として、翌々日納品を段階的に実施（8,12月）。
- 2019年 ゴールデンウィークの期間中に翌々日納品を実施（5月予定）

今後は…

ドライバーの納品作業時間（待機含む）の時短策が急務（得意先様の荷受業務省力化など）

GW10連休、イベント（オリパラ等）働き方改革法案 ⇒ 物流環境悪化

検品効率化による荷受作業の省力化 & 翌々日納品による車両の有効活用

企業価値向上（サステナビリティ）の実現

「ホワイト物流」推進運動への参加

**経営基盤
の強化**

**社会・環境
に順応**

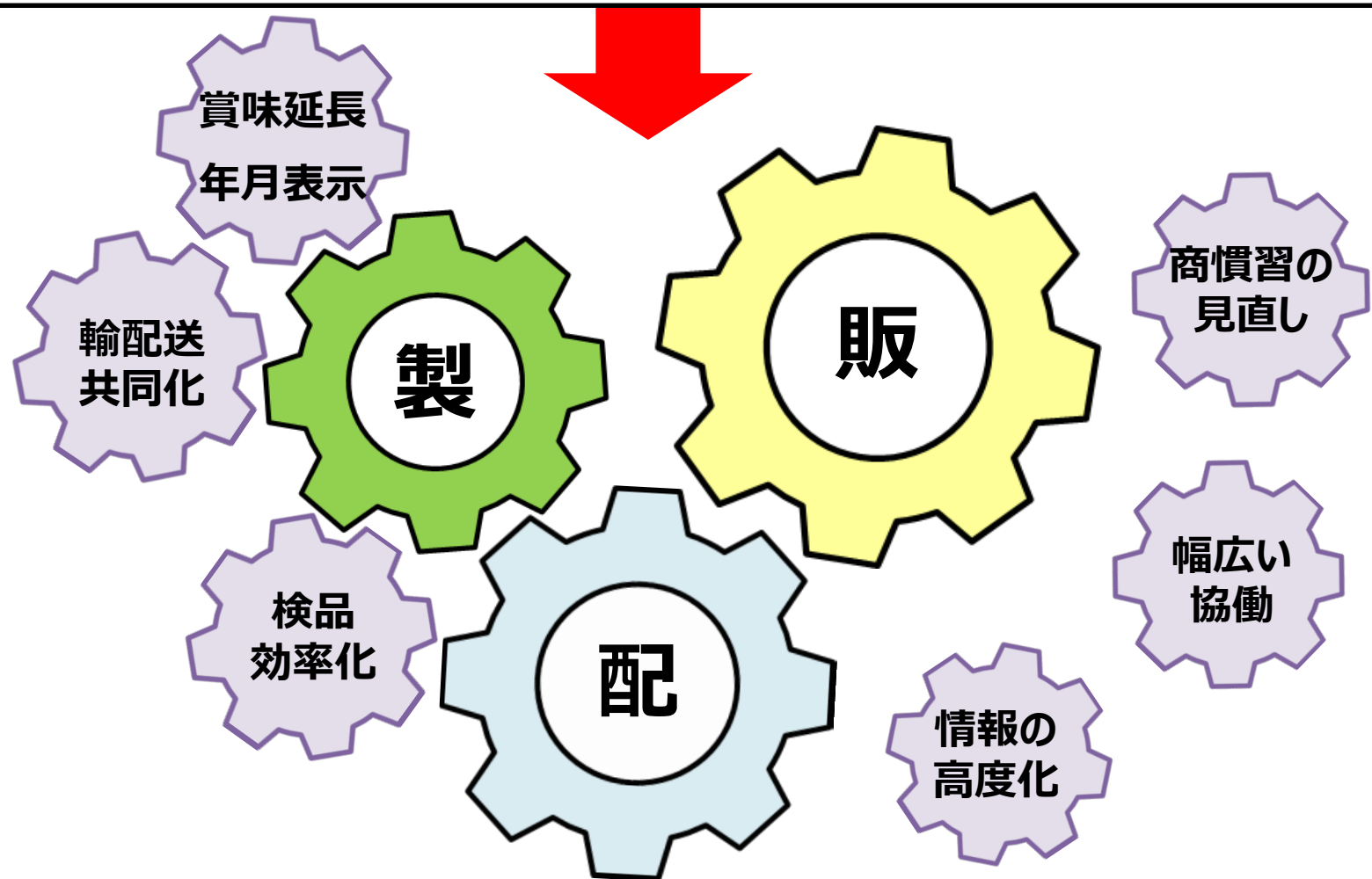
政府より推奨項目（別紙：参考資料）の実施により

- ◆ 業界の商慣行や自社の業務プロセスの見直しによる**生産性の向上**
- ◆ 物流効率化による**CO2の削減**
- ◆ **経営活動を維持**する物流を安定的に確保
- ◆ **企業の社会的責任**の遂行

等に、貢献していく

最後に 今後の製配販連携に向けて

急速に変化する社会環境・物流環境において、**改善**レベルではもう不十分と考える消費者に商品をお届けするためには、**改革（イノベーション）**の段階にきている



キューピーは各社様とともに、**持続的で豊かな社会**を創っていききたい



以上

ありがとうございました